

第二回中間報告

(2022年12月8日～2023年4月30日)

国際ロータリー第2710地区2022-2023年度

グローバル補助金

奨学生：丹羽 美咲

1. 報告書提出日：2023年7月7日 第2回報告

2. 基本情報：

派遣ホストクラブ及びカウンセラー：福山南ロータリークラブ、阿部晋士様

受け入れホストクラブ及びカウンセラー：Rotary Club of Corstorphine, Mr. Forbes Howie

教育機関：エディンバラ大学

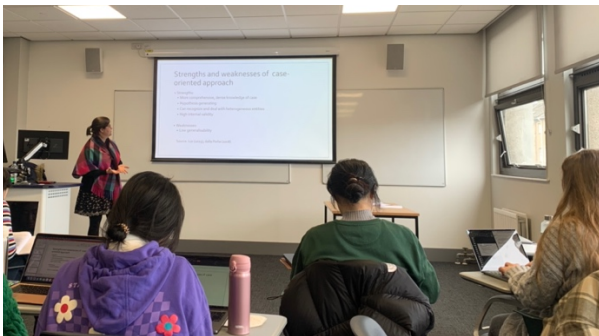
専攻分野：比較教育及び国際開発(MSc Comparative Education and International Development)

3. 学業面での成果：

2学期に取得した授業：

Comparative Analysis and Education (比較分析と教育) (20単位)

このクラスは、3つのセクションに分かれて構成されていました。最初のセッションでは主に、比較教育の中核となる定義や主流の比較モデルなど、比較教育の目的、理論に焦点が当てられていました。国際教育と比較教育の違い、時間軸での比較や国内での比較について事例を参考にしながら、ジャーナルや研究論文を通して学習しました。2つ目のセッションでは、比較研究で比較する対象サンプルとグループの選択を中心に学びました。比較対象を選択する際のポイント、異なる郡、州、地方自治体を調査するための統計の概念、学校および大学のランキングの役割について学びました。比較教育の定義としては、グループ間の比較だけを指すのではなく、同じグループを時間軸で捉え長期的に比較することも指されています。最後のセッションでは、4人グループで比較教育に関わる研究の提案書を作成し、教授等から有益なフィードバックを得ることができました。



The Anthropology of Education and Learning (人類学の教育と学び) (20単位)

この授業では、社会人類学の学問を通じて得られる洞察と概念が、教育理論と実践への理解をどのように高めることができるかを探りました。教育政策の詳細な検討がどのように行われるかを学ぶことが重要とされています。そして、異なる文化的文脈における学習は、人間性、学習、文化の関係についての知識を構築する可能性があることを知りました。このコースでは、「ジェンダー」、「階級」、「人種」、「親族」、「宗教」、「国家」などの古典的なカテゴリーに注目すると同時に、現代の人間に関するこれらのカテゴリーの複雑さを認識します。授業の構成は、読み書き能力、暴力、市民権、規律、儀式、言語などのテーマの異文化比較を中心に構成され、生涯にわたる教育と学習の側面、およびフォーマル・インフォーマル教

育の両方が取り上げられました。このコースは、世界中の教育に関する民族誌（エスノグラフィー）を用いて教育を検証することにより、クリティカル・シンキング力を高めることが主とされていました。

Conceptualizing research（研究の概念科）（10単位）

1学期の Sources of Knowledge のクラスに引き続く内容で、研究におけるものの見方を学習しました。授業は5時間で構成されており、内容は以下の通りです。

1. 現実と知識の性質、および教育研究との関係についての理論
2. 手法と方法論の関係
3. 教育研究における研究、理論、実践の関係
4. 教育研究における倫理的課題と実践
5. 研究計画と実施における帰納的および演繹的戦略

研究のパラダイムや概念、それらによってどのようなプロセスや手法で研究を進めていくかについて学習しました。

授業外での活動：

教授と執筆（SDGs 4 の Voluntary National Report のモニタリング）

SDGs 4「質の高い教育をみんなに」に関するピア・レビューの執筆に携わりました。教授とクラスメイト4名と共同で執筆しました。私は統計担当として、これまで世界の国々がSDGs 4に関するレポートを公式に提出しているかどうかの調査をしたり、提出をしていない国々が何故存在するのか、多様な統計から理由の推測をしたりしました。“The Sustainable Development Goals and the Global Governance of Education”というタイトルで、*International Review of Education* に掲載される予定です。

ロンドンでの野外活動

1日目：Association of Commonwealth Universities (ACU) 訪問



ACU がどのように移民や留学生など人の移動に関する分野での取り組んでいるのか、高等教育と国際開発での具体的な活動についてお話を伺うことができました。エディンバラ大学卒業生の方もおられ、卒業後の進路などにおける助言をいただくことができました。夕方は、クラスメイトとロンドンを観光することもできました。

2日目：UNICEF UK 訪問

現在 UNICEF UK が扱っている教育政策について、何を基準に優先順位をつけ活動を推進しているのかについてお話を伺うことができました。また、小グループに分かれ、異なる部署でどう一つのプロジェクトを遂行しているのか、詳しく質問をさせていただきました。オフィスから一望できるロンドンの街並みが印象的でした。

Career Panel 企画・運営

2日間にわたって行われたキャリア・パネルの企画・運営に携わりました。OECD、World Bank、IEA やその他 NGO など合計10の団体からゲストスピーカーを招待し、キャリアを形成していく上でどのようなことが大切か、そして現在の職でどのようなことをしているかを中心に話をさせていただきました。オンライン上で開催をしたため、200名を超える参加者を募ることができました。

2学期修了記念食事会

2学期修了の記念として、学科内のクラスメイトと教授と共に食事会を開きました。これまで2学期間ともに学び助け合ってきた仲間や、授業内だけでなくいつも側でサポートしてくださった教授と時間を共有でき、思い出に残る夕食会となりました。



4. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

1月28日 バーنزナイト・ケイリーダンス



バーズ・ナイトとは、多くのスコットランドの詩の作者である詩人ロバート・バーズの生涯と詩を祝うものです。夕食会は通常、詩人の誕生日である 1 月 25 日またはその近くに開催されているそうです。ロータリアンの方々、そのご家族の皆様で例年楽しまれている会に、我々奨学生（5名）を招待していただき、スコッツ語が使用された詩のパフォーマンスを鑑賞させていただきました。少年が吹くバグパイプも非常に印象的でした。夕食後には、全員でケーリーダンスを踊るなど賑やかで素敵なイベントでした。

5. 今後の目標

2 学期の授業が全て修了し、残すは修士論文の執筆となりました。自分が興味のある研究分野の専門である Dr Aliandra Barlete 先生がスーパーバイザーとしてご指導をしてくださることに決定しています。8 月 3 日の修士論文最終提出日まで、着実にリサーチを進めていきたいと思います。（下の写真は、Dr Aliandra Barlete 先生が自宅に我々生徒を招待してくださった時の写真です。）

